第２７回（令和７年度第２回）タウンミーティングの概要

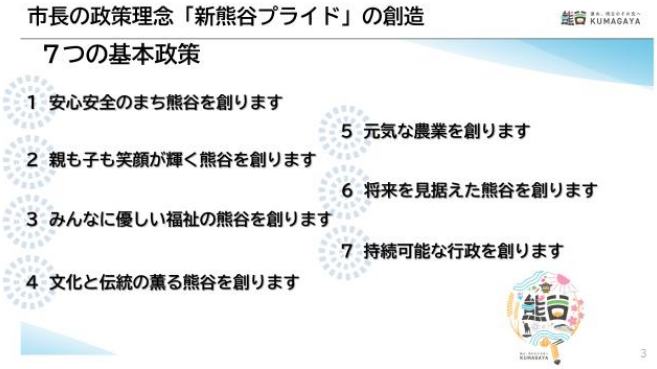
１　団体名　籠原地区連合自治会
　　代表者　会長　藤野　和夫

２　日程等
（１）開催日　令和７年８月２３日（土）午後１時３０分開会（午後３時閉会）
（２）会　場　籠原公民館
（３）テーマ　熊谷の市政について

３　意見交換の概要
※ [　　] 内はミーティング終了後、所管課で補足したものです。

まず、ご要望に応じ、市政の現状についてご報告いたします。

市長　私は、市長就任時に、この７つの基本政策を作りました。特に「親も子も笑顔が輝く熊谷を創ります」では、お子さんたちが安心して過ごせる、学べるまちをつくること、これは親御さんにとっても当然良い環境になると考え、取り組んでまいりました。



では、注目の子ども政策としては、まず、安心して子どもが産める、もっと言えば経済的な負担をなくすため、今年の４月から０歳、１歳、２歳児の保育料を無償化いたしました。

また、学校給食の保護者負担軽減も実施いたしました。

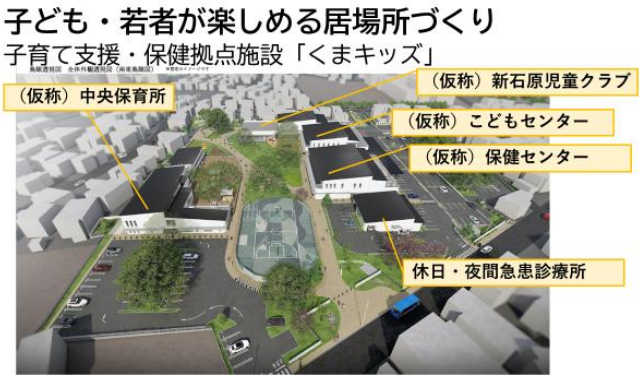
あわせて、駅でお子さんを預ければ、子育てをしながら働いている方の支援になるだろうと考え、熊谷駅直結の保育ステーションを設置いたしました。

また、お子さんたちの教育環境を整えるため、来年から４年間で小・中学校の体育館の空調を設置することとし、まず、今年既にこの設計ということで動き出しています。体育館というのは、スポーツをするだけではなく、避難所にもなります。

小さなお子さんが水遊びできるじゃぶじゃぶ池をさくら運動公園の屋内プールの東側にオープンいたしました。噴水や滝のようなウォーターカーテンを作って、お子さんたちに夏の思い出を作ってもらい、楽しんでもらっています。

その日の天候にもよりますが、１００人から２００人の方は、来ていただいているようです。一方で今度は日陰が足らないという意見があります。これは来年考えていけたらと思っています。

　このじゃぶじゃぶ池と合わせて、同じさくら運動公園にスケートボード場もオープンいたしました。レイアウト変更が可能なアイテムを設置しましたので、初心者に向けた大会用に配置できる一方、技術がある方たちの競技会をやるために難しい配置もできます。



　今度は、現在建設中の子育て支援・保健拠点施設です。小・中学生のお子さんたちや一般の方から、８，０００件を超える応募をいただいて、「くまキッズ」という愛称になりました。（仮称）中央保育所という形で４つの保育園を１つにして、この保育所でお預かりをします。それから、（仮称）新石原児童クラブ、（仮称）こどもセンターは子育てに関する様々な相談と子ども同士でコミュニケーションできる場になります。隣に（仮称）保健センターがあり、ここでは、発育・発達に関する育児相談や成人の健康相談業務を行います。休日・夜間急患診療所もこの施設の中に全部入れ込んでいます。子育てで困ったことがあったらすぐにここに来て相談ができる施設が来年の４月にオープンします。

　今度は、令和１０年３月にオープンの（仮称）道の駅「くまがや」です。特に地域の食、それから地元の農産物の直売所、熊谷には、青果市場もありますので、珍しい果物も皆さんにご提供できます。



　目玉はやはりこどもの居場所です。ここに木のぬくもりをいかした屋根のある遊び場を作ります。屋内ですから夏暑ければ涼しく遊べる、冬寒ければ暖かく遊べる。そして雨が降ったときの行先にもなります。市民の皆さんが楽しめる場所とし



て、リピートしていただけるような場所です。

続いて二つのマンガ形式のブックレットです。一つは、去年作った「マンガ直実・蓮生物語」です。直実公が出家をした後どうなったかを多くの方がご存知でないと思います。そこで、実は直実公がどういった武将であったか、その名前がなぜ熊谷になったのかがわかる本を作成して、小・中学生に全部配ってあります。

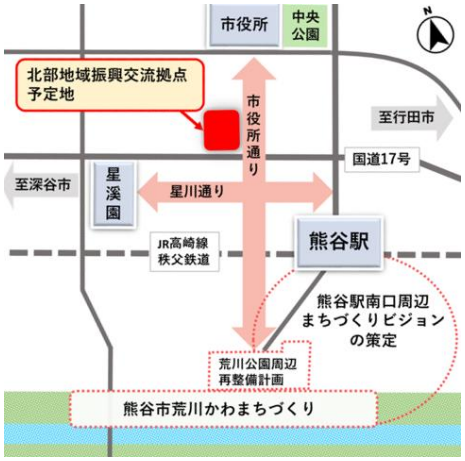
今年の３月に出したのが、「マンガ斎藤実盛公と妻沼聖天山」です。妻沼聖天山の「歓喜院聖天堂」は埼玉県で唯一の建物の国宝ですので、熊谷の誇りとして、実盛公と聖天様を籠原の人も自慢をしていただけたらありがたいと思います。もちろん皆さんにも読んでいただきたいのですが、あえて漫画にしたのは、小さなお子さんたちが「熊谷ってどういうところ」と聞かれたときに、「熊谷にはこういうものがある」と答えられる。子どもがそれを答えるようになったときに、地域に対する郷土愛も育まれて、街に対する想いとともに、プライドができていくだろうということで作成しています。

来年の３月発行のものは根岸友山・武香という大里の方です。根岸家長屋門という建物が今でもあります。幕末で活躍をして、地域にしっかりと根ざして頑張ってくださった親子を紹介したいと思っています。

ここまでお子さんたちにとって、熊谷がいい街だ、もしくは熊谷に生まれてよかったなと思ってもらえる取組をご紹介いたしました。冒頭の「７つの基本政策」の７番目に「持続可能な行政」というのがありました。私が市長になって、一番の問題は何かというと、人口の減少です。２番目の問題は、市役所本庁舎をはじめ、様々な市有施設が竣工から長い年月を経過しており、物によってはもう６０年を超えて、老朽化という問題に直面しています。耐震がない建物を新しいものに変えていかないと、次の世代の方たちに借金とは別にツケが残るということになります。この街に行きたい、この街を選ぼうかというときに熊谷市の元気は何といっても一番はやっぱり人口です。人口を維持するために、熊谷を選んでいただけるようにどのように変えていくかというのが次のテーマになってきます。

北部地域振興交流拠点の整備の場所は、コミュニティひろばです。令和７年３月に県が策定した「北部地域振興交流拠点基本構想」では地上１１階建てとなっています。今の市役所も、あと数年で６０歳を迎え、北部地域振興交流拠点には市役所の移転を検討しており、市役所が今の場所より公共交通の盛んな熊谷駅やバス停留所に近づくことで、市民の皆さんがより利用しやすい場所に

変わっていくことになります。



それと併せて、星川通りというのがあります。皆さんに歩いてもらえる、楽しんでもらえる街に変えるにはどうしたらいいだろうということで、駅から星溪園へこの星川を歩きながら熊谷を楽しんでいただける、そういうエリアに変える取組もスタートしています。

もう少しすると、この星川にグリーンスローモビリティというものが動き出します。星川みどりの広場から星溪園まで、運転手を含めて７人乗りのグリーンスローモビリティが星川通りを走ります。それに乗ってまちなかをゆっくり見ていただいて、星溪園まで行っていただけたらと思っています。熊谷がもっともっと人に動いてもらえる、そういう街に変える取組もしています。

（商業観光課）

９月２７日（土）から１０月２６日（日）の間、グリーンスローモビリティの試験走行を行いました。

カート型：９月２７日（土）から１０月１１日（土）まで

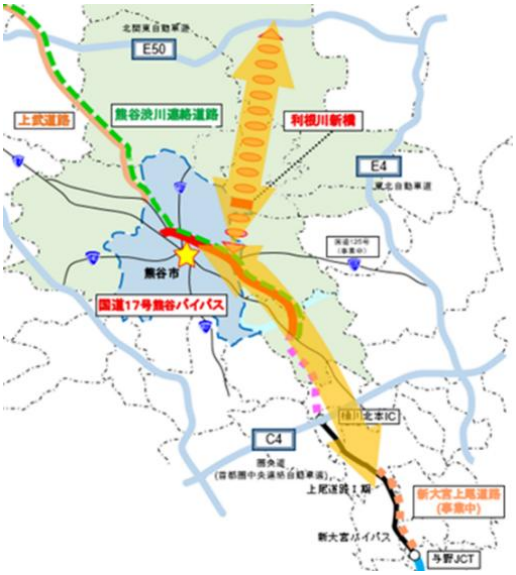
バス型：１０月１２日（日）から１０月２６日（日）まで

今年の３月２１日に熊谷駅のコンコースに観光案内所をオープンいたしました。おかげさまでオープン後３日で１年分の売り上げを抜きました。今も１日平日１００人、土日３００人ほどのお客様にお越しいただいています。本来、熊谷のいいところを紹介する場ですけれども、そこで売っているものを、お買い上げいただいて、気がついたら、１週間で１００万円ぐらい売り上げる週もあるようです。場所を移した効果も出ているのかなという気がしています。

あわせて熊谷がどんどん変わっていきます。荒川の河川敷になります。せっかく荒川という川があるので、できればもう一度綺麗にしてもらって市民の皆さんに愛される空間にするため、応募をしたところ、８月１日に国土交通省による「かわまちづくり計画支援制度」の登録をいただきましたので、荒川の河川敷が、これから５年間かけて綺麗に改修されますので、ぜひ楽しみにしていただけたらと思います。

あとは、１７号熊谷バイパスです。この本線部事業化の要望にも、国土交通

省に直接お伺いをしています。あわせて、上武道路についても、大渋滞の解消に向けて動いています。深谷の１７号バイパスを２車線、それから群馬に行く上武道路も２車線のところを４車線にするという目的のために期成同盟会を設立し、要望活動に力を入れています。ここは特に、籠原地域の方にはある意味関係の深いエリアでもありますので、楽しみにしていただけたらと思っています。



次に利根新橋です。利根川に橋を架けるための予備設計に着手していることもご報告をさせていただきます。

市民　籠原地区の医療についての質問です。熊谷市は深谷赤十字病院の方に補助金等を支出しているのでしょうか。

もし、支出をしているのであれば、籠原地区の住民の皆さんが１１９番したときに、遠方の熊谷総合病院ではなく、こちら熊谷市であっても、近場の深谷赤十字病院の方に搬送してもらうことができるのでしょうか。

市長　まずは補助金についてです。熊谷、行田、深谷、本庄など８市町で補助しており、熊谷市は第３次救急医療支援として深谷赤十字病院に対して年間約1,100万円、令和７年が1,098万円、令和６年も1,098万円の補助金を出しています。

病院には、初期救急医療に２次救急医療、そして３次救急医療という形で、位置づけがあります。日赤は３次救急医療に属しています。この３次救急医療病院というのは、８市町の中では深谷赤十字病院しかありません。生命の危機が切迫している重篤なものについては、深谷赤十字病院に搬送されるということになります。

市民　以前、籠原駅から深谷赤十字病院までのバスが、一時休止になりました。それから、皆さんのいろんなご意見をいただきながら、市の方へ要請しまして、現在も籠原駅から深谷赤十字病院までのバスが出ております。ただ皆さんの中から本数が少ないという意見が出ています。世間一般を見ると、バスや車両はあるけど、運転者が少ないということで、あまり無理は言えないですが、も

う少し市民の移動手段を考えていただきたい。

市長　まずは公共交通です。バスについて当初、籠原駅から深谷赤十字病院まで、あるバス会社が運営をしてくれていました。そのバス会社が撤退したところ、そこに別のバス会社が入ってくれて、運行をしていただいています。これが、なかなかややこしいのが、私ども熊谷市内で完結をしないで熊谷と深谷と自治体をまたぐというのが少し難しい状況にはなっています。時間にもよりますが、１時間に１本ペースでしょうか。その中で病院に行く需要なのか、お買い物に行く需要なのか、目的が何かでその使い方が変わってくるとは思います。

　１点、熊谷市の高齢者の方々に対する福祉の交通のお話をさせていただくと、来年１月からオンデマンド交通を、妻沼で開始します。今ある公共交通を守るということも必要になってきますので、妻沼地域では、オンデマンドが自宅まで迎えに来るのではなく、約半径１５０ｍでポイントを約１００か所設けて、そこにオンデマンドの車両に来てもらって、時には相乗りをしてもらって、バスと、このオンデマンド交通の両方を使っていただくことで、地域の足の確保できないかということでスタートしますので、これがうまくいったときには、これを熊谷市全域に少しずつではありますけれども、伸ばしていきたいと考えています。

　地域の交通については、明確な答えは出せませんけれども、バス会社さん、深谷市とも含めて話し合いはさせていただけたらと思っていますので、併せてオンデマンドが来年の１月から始まりますから、少しそちらにご注目をいただきたいと思います。

（企画課）

　オンデマンド交通の乗降ポイントには、原則として、看板またはラベルシールを掲示します。

　オンデマンド交通の導入地域を拡大していく場合、同時にゆうゆうバス路線の再編も検討することとなります。

　また、地域の補完交通となることから、既存の交通事業者と調整の上、運行内容を決めていく必要があります。

市民　続けて、今、熊谷市も外国の方がだいぶ増えております。自治会の中でいろんなご意見が出ておりますのが、ゴミの集積所の問題、ルールを守らない等の問題が出て苦慮しております。これらについて、自治会としては、例えば環境美化センターから６か国語の案内をもらってきて配ったり、貼ったりしているんですけど、なかなか思う通りにいかないということで、その辺の市とし

てのお考えをお願いしたいと思います。

市長　次は外国の方の問題です。一番はルールですよね。ゴミ出しの話がさっきありました。これをどう周知していくかということですが、地域のルールがあるということは、お伝えできるようにしたいと思っています。特に聞いているのは、家族と連絡を取るときに、時差があったりして、夜中に外に出てきて、電話での会話の声が聞こえて、大変迷惑だという話も伺っていますし、私どもとしても、どこの自治会さんに伺っても必ず今出てくるのがこの問題で、ゴミ出し、それから地域のルールというのが出てきていますので、どういったやり方があるかということを検討させていただきたいと思います。

市民　市立図書館についてですが、令和５年の３月に定例議会で、議員さんが図書館の建設について質問されていました。議会だよりに、西部地区籠原エリアに図書館の建設予定はありますかという質問に対し、西部図書館として、令和１７年度から２６年度までの間に新規整備することになっていますと回答がありました。西部生涯活動センター、西部図書館というのは、場所はどこを検討しているのか、お聞きしたいと思っています。

それからもう一つは新しい市庁舎の中に図書館機能があるといいかなと思っています。あわせてお願いします。

市長　市内に７つの拠点となる生涯活動センターをつくる計画ですが、その中で特に西部に関してまだかなり先の話で、当初の予定は、新堀小学校の予定でした、新堀小学校と、それから玉井小学校が統廃合をして、新堀小学校が空く。空いた後、西部生涯活動センターにする計画でその話ができたところです。ところが、改めて検証をしていくと、それほど児童が減少しないという見込みが出てきて、もう一度見直しを検討させていただこうということになっています。とはいえ、特に熊谷市内でも、この籠原駅を中心としたエリアには多くの方に住んでいただいていますので、そこに拠点がないのは、私もおかしいと思いますので、図書館も含めて、もう少しお時間をいただいて、検討させていただきたいと思っています。

新庁舎には市立図書館を導入する予定はありませんが、令和７年３月に県が策定した「北部地域振興交流拠点基本構想」によると、埼玉県が新埼玉県立図書館の窓口機能の導入を検討しています。

市民　籠原団地はだいぶ高齢化とともに空き家が増加しております。それで、それぞれの家とか見ますとだいぶ、植木が外へはみ出していたり、もうすごい状

態の家が所々あります。そういう場合は市の方で、何か対処する手立てはないものかと思います。

市長　今のお話は熊谷市中からもらっています。今本当に熊谷市のもう一つの問題。 空き家です。年々増えています。空き家の中から木が出てきているということになると、その時には空き家対策も含めて担当しているのが安心安全課ということになります。まずは市役所に電話いただければ、担当の課の方に回します。もう一つは、民家と民家の間の木は市役所が直接手を出せません。木を切るということはできませんが、その空き家の持ち主や相続人の方に市の方から連絡を入れて、この木をどうにかしてくださいという対応はさせていただきます。